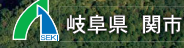


# 関市弥勒寺史跡公園

～国指定史跡・弥勒寺官衙遺跡群～



## 散策マップ



### 弥勒寺史跡公園

#### 国指定史跡 弥勒寺跡

弥勒寺官衙遺跡群から出土した遺物の一部を関市円空館常設コーナーで展示しています。

大日岳に源を築する長良川は、奥美濃の山間を紆余曲折しながら南流し、関市域に入ると池尻山麓に沿って南東方向に流れますが、向山・松尾山が連なる山塊に行く手を阻まれ、鋭角的に屈曲して西に流路を変えます。国指定史跡弥勒寺官衙（かんが）遺跡群（弥勒寺跡・弥勒寺官衙遺跡・池尻大塚古墳）は、この屈曲の内側で、背後の池尻山との間に形成された狭小な河岸段丘上に立地します。ここは小瀬峡谷と呼ばれる自然の要害で、地形的に外界から遮断され、完結した空間を形成しています。弥勒寺は円空終焉の寺としても知られ、河畔には県指定史跡円空入定塚があります。



弥勒寺跡のイメージ

1953年、石田茂作による発掘調査が実施され、1959年に国指定史跡となりました。法起寺式伽藍（がらん）配置をとり、川原寺式の覆井蓮華文軒丸瓦、四重弧文軒平瓦・凸面布目平瓦が出土しています。講堂、塔、金堂等が見つかりますが回廊・経蔵・鐘楼については、まだよくわかっていません。



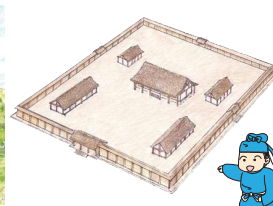
軒瓦 平瓦

#### 国指定史跡 弥勒寺官衙遺跡（弥勒寺東跡）

弥勒寺跡の東に隣接する弥勒寺東遺跡は、1994年から発掘調査が開始され、律令制下の武蔵郡衙跡（むぎくんがあと）であることが明らかになりました。郡庁院・正倉院・鏡院（たていん）・厨院（くりやいん）など、郡衙を構成した全ての施設が把握できる全国的にも例の無い遺跡です。2007年に弥勒寺官衙遺跡として国史跡に追加指定されました。また、郡衙成立以前の段階で「弥勒寺」が建立されるまでの飛鳥・白鳳時代（7世紀後半～8世紀初頭）と郡衙が存在した奈良時代初期から平安時代中頃まで（8世紀初頭～10世紀前半）、さらに中世の遺構が重なり合う複合遺跡でもあります。



正倉復元図



郡庁院イメージ

### 国指定史跡 弥勒寺官衙遺跡群（弥勒寺跡・弥勒寺官衙遺跡・池尻大塚古墳）

#### 国指定史跡 池尻大塚古墳

池尻大塚古墳は、「弥勒寺」や武蔵郡衙を営んだ豪族の墓と考えられています。墳丘が失われて石室が露出していることから、美濃の石室台古墳とも呼ばれています。一边が22～24mの方墳（四角形）で、石室は巨石が用いられた立派な古墳です。石室内から金色に輝く飾り金具が出土しました。

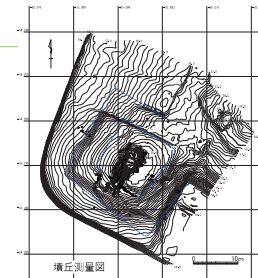
遺跡群の群り立ちを考える上で重要な遺跡として、2016年に国史跡に追加指定されました。



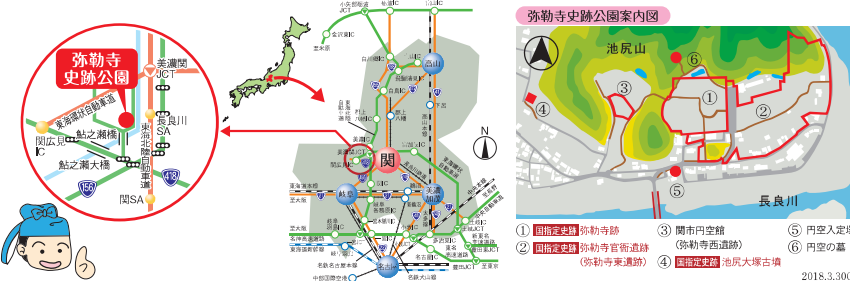
飾り金具（高さ5cm）



石室の調査



墳丘測量図



### 交通のご案内

関市文化財保護センター  
TEL 0575-45-0500 URL <http://www.city.seki.gifu.jp/>